

本日の議論の進め方

令和8年4月15日

G Xグループ エネルギー・環境イノベーション戦略室

本日の議論の進め方

※すべて公開

省庁担当課による説明・質疑応答①

- 環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課より、プロジェクトへの取組追加及び一部見直しに伴う「研究開発・社会実装計画」（改定案）等について説明し、その後、委員より質疑



省庁担当課による説明・質疑応答②

- 資源エネルギー庁 資源・燃料部 政策課 地熱資源開発室より、プロジェクトの新規組成に伴う「研究開発・社会実装計画」（案）等について説明し、その後、委員より質疑



省庁担当課による説明・質疑応答③

- 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課より、プロジェクトへの取組追加・拡充に伴う「研究開発・社会実装計画」（改定案）等について説明し、その後、委員より質疑



決議

- 3プロジェクトに関する「研究開発・社会実装計画」（案・改定案）について決議を実施
- ご議論いただきたい事項は2・3ページ目のとおり。

研究開発・社会実装計画（案・改定案）について御議論いただきたい事項（1/2）

1. 背景・目的について

- 重点分野の現状と課題、その解決の方向性、社会の全体像が示されているか。関連する技術・市場動向、企業等の国際競争力、制度環境、海外の政策動向等の分析は示されているか。
- 上記全体像の中で、本計画で取り組む範囲は適切か。民間企業が自主的に取り組むべき内容を支援対象に含んでいないか。
- 制度整備や国際連携等、研究開発以外の政府（関係省庁含む）の取組や民間団体の自主的な取組と有効に連携させた、社会実装までの道筋を示す計画となっているか。
- 関連する研究開発プロジェクトとの重複を排除し、連携する体制を構築できているか。過去の類似のプロジェクトの反省は行っているか。

2. 目標について

- 企業等の経営者のコミットメントの対象となるアウトプット目標として、野心的かつ評価可能な指標（性能、コスト等）が設定されているか。
- プロジェクト内容と整合的かつ国民目線で分かりやすい表現により、CO₂削減効果や経済波及効果（関連ビジネス全体）等のアウトカム目標を設定しているか。
- 改定の場合、アウトプット目標やアウトカム目標への影響がないか。

研究開発・社会実装計画（案・改定案）について御議論いただきたい事項（2/2）

3. 研究開発項目と社会実装に向けた支援について

- 目標を達成するために必要な技術課題が分析されているか。研究開発の範囲や解決手法を限定せず、研究開発内容を適切に分割する等して、幅広い事業者の創意工夫を促すよう設計されているか。
- 規模、期間、実施主体、研究開発要素（委託・補助の考え方）等は、野心的な目標を定めた上で研究開発から社会実装までを継続して支援するという基金事業の趣旨に合致するか。（「グリーンイノベーション基金事業の基本方針」に定める要件を充足しているか。）
- 成果を最大化させるため、実施者間の連携又は競争を適切に促す設計となっているか。
- 標準化等、社会実装に向けた支援方策を十分に検討出来ているか。
- 改定の場合、記載を変更する意義や合理性、既存の研究開発内容との関係性は明確か。

4. スケジュール・予算について

- 事業化に向けた段階の切れ目等の適切なタイミングにおいて事業継続可否を判断するステージゲートを設けているか。費用対効果を最大化するため、技術方式の絞り込みや社会実装を担う事業者の追加公募等を行う予定としているか。
- 予算額の考え方は適切か。
- 改定の場合、社会実装に向けたスケジュールに影響がないか。変更後の予算額の考え方は適切か。

（参考）取組の追加・拡充を想定するプロジェクト

- ・ 前述の評価軸等も踏まえつつ、基金残額の一部を活用して、以下のプロジェクト組成等を進めることにつきご了解をいただきたい。

今回の審議対象

1. 新しいプロジェクトの追加

● 次世代型地熱技術の開発

IEAレポートにて2050年までに世界のエネルギー需要の15%を占めることが見込まれるとされている地熱発電は、次世代型地熱発電技術を中心に、今後の市場拡大が期待されている。日本は地熱ポテンシャル世界第3位であることに加え、次世代型地熱技術は①従来型よりも深い場所の地熱資源の活用や②地下に水や割れ目がない地点での開発などを可能とするものであり、今後の導入拡大の有力な選択肢であることから、地熱発電容量の拡大に向けた研究開発・実証に取り組む。

2. 実施中のプロジェクトへの取組内容の追加

● CO₂分離・回収を前提としたCN型廃棄物焼却処理全体システムの開発

2024年-2025年にかけて、「CO₂回収プロセスに影響を与える廃棄物由来微量物質の特定ならびに影響評価」等の開発を行い、2025年時点でラボ/ベンチ試験にてCO₂回収率90%以上などのKPIを達成。引き続き、大規模実証においても廃棄物に含まれる炭素安定回収率90%以上の達成を目指すべく、開発・実証に取り組む。

※①「廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現」プロジェクトへの取組内容の追加

（参考）取組の追加・拡充を想定するプロジェクト

- ・ 前述の評価軸等も踏まえつつ、基金残額の一部を活用して、以下のプロジェクトへの取組の追加・拡充を進めることにつきご了解をいただきたい。

実施中のプロジェクトへの取組の追加・拡充

● 次世代蓄電池の開発加速

①プロジェクト開始当初に予見が困難であった環境変化への対応に加え、②研究開発の進捗に伴う新たな技術課題等への対応、③既存の全固体電池開発事業の加速に資する共通基盤技術の開発や共通課題の解決を通じ、次世代蓄電池の研究開発を更に加速させ、将来的な自動車の電動化を支える基盤技術や産業競争力の一層の強化を図る。

※⑫「次世代蓄電池・次世代モーターの開発」プロジェクトの取組の追加・拡充

今回の審議対象

● 公共施設・インフラ空間特化型ペロブスカイト太陽電池の開発・実証

ペロブスカイト太陽電池を公共施設やインフラ空間に導入することで、需給近接の電力供給が可能となり、CO2排出削減や経済効果、災害時のエネルギー供給源としての役割が期待される。導入拡大に向けて重要となる運搬・施工性や耐久性・安全性の高いモジュール設計、量産技術の開発に取り組み、国内での社会実証を通じて技術を確立した上で、国際標準化を進めつつ、国際展開を加速する。

※⑫「次世代型太陽電池の開発」プロジェクトの取組の拡充